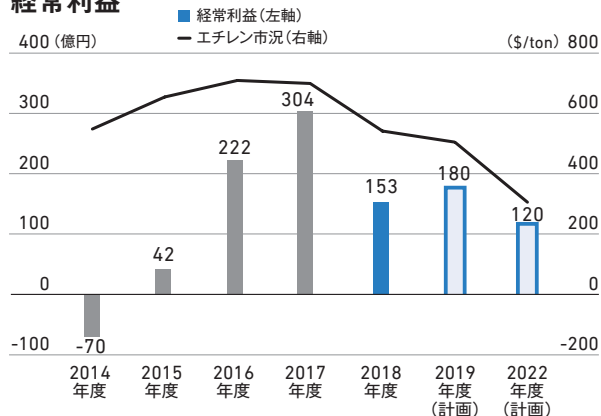




石油化学事業

PETROCHEMICAL BUSINESS

経常利益



- 世界需要を牽引するアジアで一貫生産体制を確立
- 国内最大規模のエチレン生産能力を基盤としたコスト競争力(丸善石油化学)
- アジア最大級のバラキシレン生産能力を基盤としたコスト競争力(HCP)※

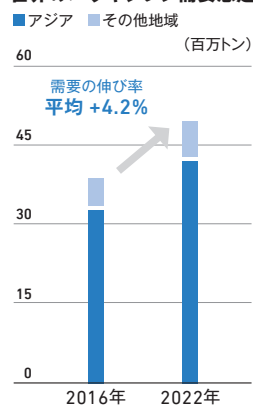
※ Hyundai Cosmo Petrochemical。韓国ヒュンダイオイルバンク(HDO)との合併会社。

国際市場の拡大を背景に、石油化学事業を成長ドライバーとし、更なる成長をめざす

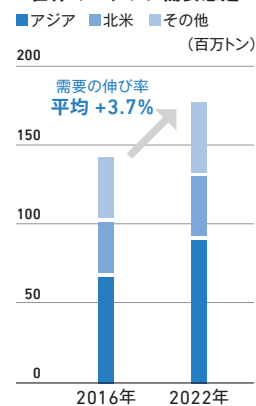
石油化学製品は世界の人口増加を背景に、国際需要は更なる成長が見込まれております。こうした動向を踏まえ、第6次連結中期経営計画では、石油化学事業を成長ドライバーとして位置づけており、今中計では積極的に投資を行い次期中計以降確実に収益を享受してまいります。

当社グループの丸善石油化学やヒュンダイコスモペトロケミカル(HCP)がもつエチレン、バラキシレン生産での高い競争優位性を最大限活用するとともに、石油精製事業とのシナジーの享受と深度化に取り組んでまいります。

世界のバラキシレン需要想定



世界のエチレン需要想定



出典：経済産業省「世界の石油化学製品の今後の需給動向(2018年10月)」

当社グループの競争優位性を最大限活用するとともに、機能品の新規事業拡大をめざす

当社グループの丸善石油化学は、年間129万トンという国内最大規模のエチレン生産能力を有しており、千葉県京葉工業地域と三重県中京工業地帯に工場があります。特に千葉工場は2つのエチレンプラントを有しており、コンビナートの中核を担うエチレンセンターとして機能しております。近隣の石油化学メーカーとパイプラインをつなぎ、2つのエチレンプラントの競争力を活かした装置稼働を行っています。

今後は、石油精製事業と石油化学事業のシナジーを創出するため、原料及び燃料の融通(エチレンプラントの原料多様化)、ユーティリティ(工場で使用する電力や水など)の有効活用、設備の合理化などで、更なる競争力強化をめざしてまいります。

さらに基礎品の競争力強化と市況環境の影響を受けにくい機能品事業の拡大をめざしてまいります。

2018年度実績

石油化学市況の下落及び、丸善石油化学の定期修繕影響による販売数量減少などにより経常利益は153億円(前年比-151億円)となりました。

2019年度見通しに関して

グループ会社の丸善石油化学における、18年度の定期修繕解消による販売数量増加などが寄与し、経常利益は180億円(前年比+27億円)を見込んでおります。

当社グループは、2009年11月にヒundaiオイルバンク株式会社(HDO)と合併会社ヒundaiコスモペトロケミカル(HCP)を設立しました。HCPは年間118万トンという世界最大級のパラキシレン製造装置を保有しており、世界有数のパラキシレンメーカーです。パラキシレンは高純度テレフタル酸からポリエステルへと加工され、



HCPのパラキシレン製造装置

衣料品やペットボトルなどの最終製品となります。

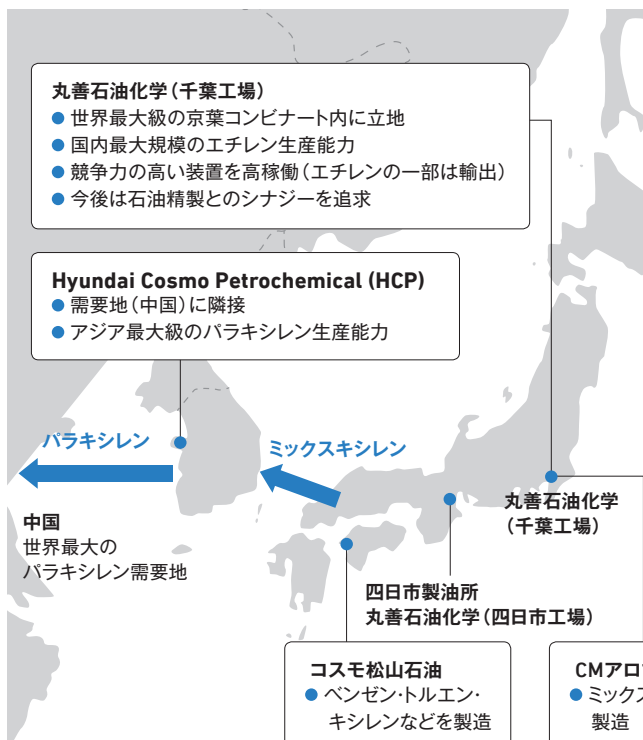
また、今後、国内のガソリン需要が減少することになっても、ガソリンからミックスキシレンに生産をシフトすることで、製油所の競争力を向上させることができます。

今後とも世界の市場変化を捉え、国内外のネットワークを活用しながら、事業を成長させていきます。



丸善石油化学千葉工場の様子

生産体制について



コスモエネルギーグループの生産体制

項目	生産会社	生産能力 (定修の影響は含まない)
オレフィン系 エチレン	丸善石油化学	※129万t/年
アロマ系	パラキシレン	Hyundai Cosmo Petrochemical 118万t/年
	ベンゼン	丸善石油化学 39.5万t/年
		Hyundai Cosmo Petrochemical 25万t/年
	コスモ松山石油 9万t/年	
	計	73.5万t/年
ミックスキシレン	コスモ石油(四日市製油所)	30万t/年
	CMアロマ	27万t/年
	コスモ松山石油	4.8万t/年
	計	61.8万t/年
	アロマ系合計	253.3万t/年

※京葉エチレン(丸善石油化学が55%を出資する連結子会社)の生産能力を含む